

普遍ニュースレター

Newsletter from Center for General Education, Chiba University

Design : CHIHARA Kazuhiko

2010.06 No.06

“普遍ニュースレター”は、
普遍教育センターの活動を中心に普遍教育・大学教育の動向に関する情報を
定期的に紹介していきます（年3回刊行予定）。

●平成22年度普遍教育センターの重点課題

千葉大学が普遍教育センターを開設し、5年目を迎えました。普遍教育科目、共通専門基礎科目の企画・運営・評価にあたり、毎年、新たな問題に直面し、未解決の問題も多々残していますが、成果も顕著に現れています。学生の普遍教育への満足度の向上、全学出動体制の申し合わせの策定、教員によるE号館改修計画の立案などがその代表例です。

平成22年度は、次の4項目を中核に据えた活動を計画しております。

第1は、外部評価による問題の明確化と改善に向けての検討です。客観的な評価を受け、それを反映し、今後、必要な活動を適確に継続していきたいと考えております。第2は、「普遍教育の運営における全学出動体制に関する申合せ」の普及と浸透です。多くの時間をかけ、全学の先生方のご協力を得て完成した成果ですので、この成果が十全に機能するよう、普及と浸透のシステムを考案し、起動させていきたいと考えております。第3は、自然科学系の教養展開科目と共通専門基礎科目充実に向けた活動です。苦しい受験を乗り越え、理系学部が多い総合大学である千葉大学に入学した学生がその恩恵を享受できるよう、この活動を推進します。第4は、教養展開科目見直しワーキングの成果の具現化であり、昨年同様、各学部を訪問し、意見交換をさせていただきたいと考えております。

今年度も、どうぞよろしくお願いいたします。

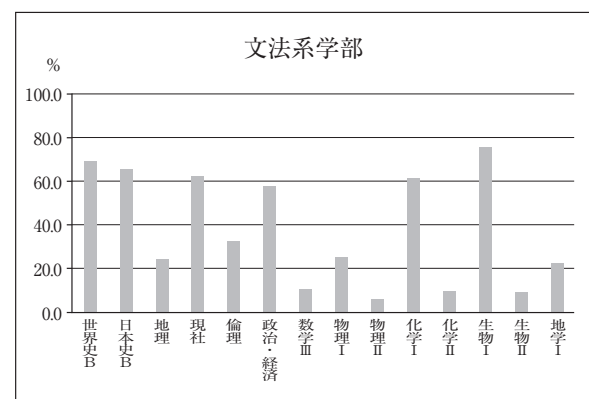
普遍教育センター 舟島なをみ

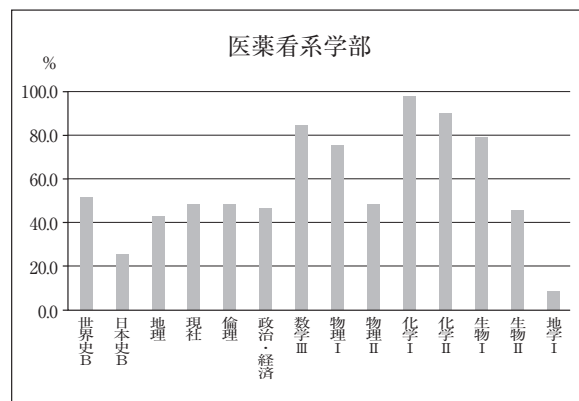
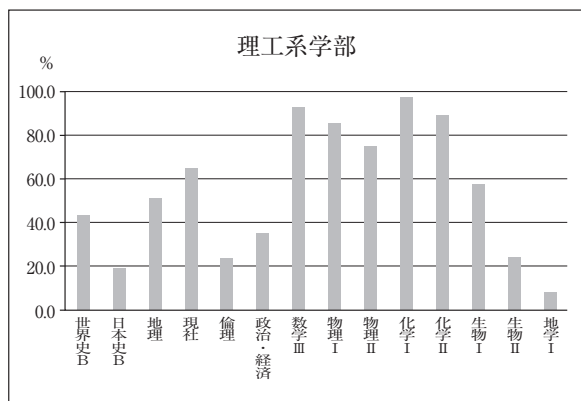
新入生の高校での履修科目等調査報告

今年度も「人文・社会科学系、自然科学系の科目に関するアンケート」（新入生が高校でどのような科目を履修してきたか、どの科目を受験科目として用いたか）の調査を行いました。お陰様を持ちまして新入生の約95%から回答を得ております。ご協力を頂きました先生方、事務職員の方々に感謝いたしております。

さて、本年度の集計が出来あがりましたのでご報告いたします。なお4月20日の普遍教育委員会にて報告し、ご意見を頂戴いたしました。各学部ごとの詳細なデータは同委員会での報告に有り

ますので、ここでは文法系学部と理工系学部、医薬看系学部に大まかに分けご報告させていただきます。なお前述の詳細なデータは末尾に記されております。





す普遍教育センターのホームページに掲載されておりますので、講義等で学生の履修動向を参考にしたい先生方は是非ご覧頂ければと思っております。本調査も平成16年度から始まり、現在の形になったのは平成18年度からです。途中履修基準の改定もあり大学新入生の学力も大きく変化したものと思われま。この中で大学の初年級の教

養教育、基礎教育をどのように組み立てたら良いのか、模索する一つの方策でもあったと考えています。これらのデータが今後の千葉大学教育カリキュラムの作成の際に参考資料として役に立つことを願っています。(松田 哲)

普遍教育センターホームページ
<http://fk.c.chiba-u.jp>

普遍教育の運営における「全学出動体制」に関する申合せについて

普遍教育は、千葉大学のすべての専任教員のご協力のもとに運営されています。

普遍教育センターでは、普遍教育科目、共通専門基礎科目の質の維持向上とその安定供給を目指して、また、全学出動体制がこれまで以上に十全な機能を発揮していくために、「普遍教育の運営における『全学出動体制』に関する申合せ」を設定しました。この申合せの作成に際しては、部局長連絡会等を通じて各学部から意見を伺い、教育研究評議会のご了承を得ています。

大規模総合大学としての特徴を活かした豊かな普遍教育の提供に深いご理解とご協力をお願いいたします。

○普遍教育の運営における「全学出動体制」に関する申合せ

(目的)

1 この申合せは、普遍教育科目等(普遍教育センターによって統括される普遍教育科目と共通専門基礎科目をいう。)を提供する前提となっ

ている「全学出動体制」について、全学の共通理解を得るとともに、普遍教育科目等の担当、並びに、普遍教育の企画・運営等への参加を促すことを目的とする。

(定義)

2 この申合せにおいて、「全学出動体制」とは、普遍教育の実施に係る方針であり、本学の専任教員(助手を除く。以下「各教員」という。)が普遍教育の重要性と全学的な協働の必要性を認識し、普遍教育の運営に対して何らかの責務を分担することをいう。なお、責務の分担とは、普遍教育科目等の担当のみならず、企画・運営への提案や参与、あるいは普遍教育科目等担当者に対する支援・配慮等を含む。

(専門教員集団への登録)

3 各教員は、普遍教育を全学で実施する組織である専門教員集団(別表)のいずれかに登録する(複数可)。また、普遍教育の企画・運営上の参考として「担当科目キーワード」を普遍教育センターに提供する。

普遍教育センターは、各教員に毎年定期的に登録内容を連絡し、見直しの機会を設けるとともに、運営上必要がある場合は、特定の専門教員集団への登録及びその変更を要請できる。なお、各教員も随時、専門教員集団への登録及びその変更を申し出ることができる。

(専門教員集団の役割)

- 4 普遍教育センター企画部、運営部は、普遍教育における授業計画基本案を作成し、普遍教育センター運営会議及び普遍教育委員会の議を経て授業計画を決定する。専門教員集団はそれを受け普遍教育科目等の開設及び授業担当教員の決定等について責任を負う。

(授業担当)

- 5 各教員は、所属教員集団の主任等から普遍教育科目等の授業担当に係る協力要請を受けた場合、極力これに応じる。

なお、授業担当に当たっては本学の教育目標『普遍的な教養、専門的な知識・技術・技能および高い問題解決能力をそなえた人材の育成』を達成するために、普遍教育の重要性を再認識し、FD等を通して研鑽に努めるとともに、熱意と責任をもって遂行する。

(各部局の協力)

- 6 各部署局長は、専任教員を任用するに際し、本申合せについて周知徹底を図る。

また、各部署局は、普遍教育の円滑な実施に向け、授業担当教員の決定、ならびに教室・実験室・教育用機材等の使用などについて、普遍教育センターへの協力及び支援に努める。なお、普遍教育の企画・運営等に関して意見等がある場合、普遍教育センターに対して意見交換の機会を要求できる。

(授業担当への配慮)

- 7 各部署局長は、所属教員の普遍教育科目等の担当状況の把握に努め、特定の教員が過度の負担を負うことのないよう配慮する。また、これらの科目の担当を、専門科目等と同様に教員評価に反映させる。

(授業担当ルール)

- 8 教養コア科目については、各専門教員集団が毎年必ず20コマを提供する。教養コア科目の授業担当は、専門教員集団主任・副主任が適切に決定する。

なお、教養コア科目を除く普遍教育科目等の授業担当については、普遍教育センターが専門教員集団及び各部署局の意見を聞きながら、原則として3年毎に見直す。

(各部署局の意見聴取)

- 9 普遍教育センターは、普遍教育の企画・運営等に係るセンターの活動について各部署局の意見を聞く機会を定期的に設け、その結果を普遍教育の改善に生かすよう努める。

(情報提供)

- 10 普遍教育センターは、各部署局に対して普遍教育科目等の担当状況に関する情報提供を行うとともに、普遍教育の教育力向上に向けたFD等の取組みの情報提供に努める。

(事務)

- 11 この申合せの実施に関する事務は、学生部普遍教育課が担当する。

附 則

この申合せは、平成22年4月1日から実施する。

別 表

普遍教育担当 専門教員集団一覧

番号	集 団 名	
1	英語科目	
2	初修外国語科目	
3	スポーツ・健康科目	
4	情報リテラシー科目	
5	教養 コア 科目	コアA 論理と哲学
6		コアB こころと発達
7		コアC 芸術と文化
8		コアD 社会と歴史
9		コアE 暮らしと環境
10		コアF いのちと科学
11	共 通 専 門 基 礎 科 目	数学・統計学
12		物理学
13		化 学
14		生物学
15		地球科学

普遍教育センター活動報告

普遍教育センターでは、年度初めに、以下のよう
な活動を実施しました。

- 普遍教育科目TA研修会（4月5日）
- 新入生ガイダンス「普遍教育って何？」（4月9日 2回開催）
- 新任教員研修会（4月7日・8日）

このうち、新入生へのガイダンス「普遍教育って何？」は、各学部で行われている履修ガイダンスとは異なり、普遍教育の意義・目的や特徴を説明するものです。

本年は、総計200名の参加がありました。普遍教育の目的と役割を理解したうえで各授業科目

を受講することで、新入生の意欲的な学習につながることを目指しています。

○「普遍教育って何？」の様子（2010年4月9日）



言語教育センターよりー英語Ⅱのカリキュラム改訂ー

英語教員集団は英語Ⅱのカリキュラム改訂を行いました。従来のL&S, R, W といった技能別を改め、以下の11種類の「内容、目的別」科目構成をしました。

映像文化：映画やドキュメンタリー等の理解

口語英語：音声コミュニケーションの能力の養成

報道英語：新聞、ニュース等の報道で使われる英語の理解

口頭発表：論理的プレゼンテーション能力の養成

留学準備：TOEFL対策を含め、留学に求められる英語力の養成

英米文化：アメリカ、イギリス等の英語国の異文化理解

文章表現：正しい文法知識、作文能力の養成

国際情報：海外の政治、経済等、時事英語の理解

文化芸術：小説、エッセイ等の文芸作品の理解

科学英語：自然科学系論文、記事を読み、論理的
文章校正能力を養成

学術情報：分野を問わず学術的内容の英語の理解

各科目は年間平均で約7つの授業が準備されており、学習者の興味、専門性、進路に合わせて履修できます。英語Ⅱのカリキュラム改革により、「技能別」の英語Ⅰ、「内容別」の英語Ⅱ、「習熟度別」の中級・上級英語と3部構成となり、多様な興味、英語力を有する本学学生に、より広範囲な学習機会を提供することが可能となりました。なお英語Ⅱ（の一部）は科目等履修生用の科目として本学大学院生にも開放されています。
(言語教育センター 高橋秀夫)

❧ 普遍ニュースレター No.6 2010年6月発行 ❧

発行・編集：千葉大学 普遍教育センター

〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町1-33 Tel : 043-290-3609 (普遍教育課)

E-mail: fuhen-info@office.chiba-u.jp URL: http://fk.c.chiba-u.jp/